

# meiji 駿台倶楽部会報

## 明治大学野球部OB会ニュース

発行 駿台倶楽部  
 会長 吉川 芳登  
 府中市若松町5-6-1  
 明治大学野球部合宿所内  
 電話番号(042)313-4134  
 F A X番号(042)364-5605

### チーム打率3割超えも投手陣踏ん張れず3位

# 陶山、山田陸W首位打者



## 丸山主将、陶山、山田陸、村松 4人がベストナイン

### 東大2回戦で30年ぶり毎回得点

春は無念の3位に終わった。東京六大学野球春季リーグ戦は4月10日に開幕。第2週からの登場となったチームは東大に2連勝。2回戦では30年ぶりとなる毎回得点を記録するなど好スタートを切った。しかし次戦の慶大に連敗。早大には連勝したが法大、立大に1勝1敗と星を落とし6勝止まりで終戦した。

個人では陶山勇軌外野手(4年=常総学院)、山田陸人内野手(3年=桐光学園)が打率5割でダブ

ル首位打者を獲得、チーム打率も3割を超えるなど打撃陣は健闘したが投手陣が踏ん張れなかった。その中で1年生たちがデビュー。遊撃では宗山塁(広陵)が法大戦から先発出場し本塁打をマーク。横山陽樹(作新学院)は先発マスクをかぶり直井宏路外野手(桐光学園)らも適時打を放った。藤江星河投手(大阪桐蔭)は立大2回戦に先発。5回を1失点に抑えリーグ初登板を白星で飾った。

ベストナインには山田陸、陶山、村松開人二塁手(3年=静岡)丸山和郁主将(前橋育英)の4人が選ばれた。

(1)

打率5割で仲良く首位打者を獲得した陶山(左)と山田陸

# 喜べぬベストナイン…「このままじゃ秋もダメ。もっと基本に忠実に」



背番号「10」を背負った丸山和郁主将には悔いの残るシーズンに終わった。慶大に連敗、負けられない立大1回戦に逆転負け。シーズン4敗の責任を背負いながら秋に向けて負けないチームに立て直す。

立大戦1回戦で敗れV完全消滅「負けた主将が話せることない」  
象徴的なシーンだった。立大1回戦が終わった。報道陣の会見を待つ記者席通路。立大の会見中、丸山は目を潤ませ下を向いたまま。微動だにしない姿がショッキングの大きさを物語っていた。

この試合、2点を追う8回に陶山、村松、丸山の3連続適時打で逆転。2死からつないだ執念の3点だった。初戦を取れば優勝の可能性は残る。あと1イニング。しかし9回、あと1アウトから

逆転適時打を浴び優勝の可能性は完全に消滅した。「試合後の記者会見に呼ばれたんです。マネージャーに出ないとダメか？と聞いたんです。本当に出たくなかった。負けた主将が話せることないでしょう。それほど痛い1敗だった。」

個人的には打率5位の3.07に5打点、6盗塁と結果を残した。しかし本人は「内容のない打率です。ここぞの局面で打てなかった。得点圏打率が悪すぎました」と反省ばかりが口をついた。善波達也前監督からは「自分のことしかやってないように見えたぞ」と厳しい言葉ももたらした。主将となり当初は戸惑いもあった。しかし心を鬼にしてナインには厳しい注文もしてきた。頭の中は常にチーム。田中武宏監督は「ミーティングでも厳しいことを言うようになった」と合格点を挙げた。

「このままじゃ秋もダメ。もっと基本に忠実にやっていきたい。投手もやってみよう。優勝したいですから丸



先頭に立ってチームを鼓舞した丸山主将

# 丸山主将「優勝して卒業したい」

山はすでに秋に気持ちを向けた。投打のレベルアップなくして覇権なし。丸山を先頭に地獄の猛練習を経て、インシシ軍団がたくましくなっている。

五十嵐待望初安打!! 秋も代打男だ  
○：最上級生になった。録。代打男として出番を春に、うれしいリーグ初。待っていた。法大2回戦、安打を放ったのが五十嵐。ドラフト候補左腕の山下真人外野手。捕手で入学。輝く対左翼フェンス直した。が今季から外野登壇の二塁打。リーグ初安打男として出番を待つ。

打をマークすると立大2回戦でも代打で左前打。見事に結果を出した。「や」と打席で自分の間合いで打てるようになりまして打てるようになった。法大1回戦では自身初の完投もマーク、成長の跡も見た。「もっとスピードを上げたいし秋は最低優勝したいじゃないか」と意欲を見せる。プロ入りを望む竹田にとって秋の成績がチームと自身の命運を握る。

通用しない。シーズン通しての体力も足りなかった。口を突くのは反省ばかりだった。法大1回戦では自身初の完投もマーク、成長の跡も見た。「もっとスピードを上げたいし秋は最低優勝したいじゃないか」と意欲を見せる。プロ入りを望む竹田にとって秋の成績がチームと自身の命運を握る。

になりました」

シーズン当初は遊撃を守り二塁に転向。三塁も守る活躍。初めてレギュラーとなったが「シーズン通して体力的には大丈夫だった。もっと試合の流れを変えられるような打撃をしたい。ホームランも打ちたい」と目標は高い。秋はさらに成長した姿で悪くても途中で修正できるようにしたい。

主砲・上田「勘違い」で好調一転  
○：チーム打率・3.2。大初戦まで調子が良かった。しかしどんなボールでも打てる中、4番の上田だけは、勘違いしてしまっ

た。手を引きさくすくいい一度頭を整理して、自分ボールまで追いかけてし。打撃を作っていた。春はチームに迷惑をかけた。秋は取り返したい。2年生の主砲は復



村松「3割&ベスト9」有言実行



竹田エース背番で「空回り」3勝

# 1年生が熱い 新鮮力台頭 秋への期待

春のリーグ戦でこれほど1年生が活躍するのも珍しい。初戦となる東大1回戦で直井、宗山がデビュー。同2回戦では横山が初打席で適時二塁打。最終

の立大戦では6番から9番まで1年生がスタメン出場。先発した藤江がリーグ初白星と躍動した。秋への楽しみが大きく膨らむ活躍となった。



## 藤江初先発1勝 立大戦5回1失点

背番号「31」を与えられた藤江が初めてベンチ入りしたのは5月15日の早大1回戦だった。それから神宮のフルベンで出番を待つ日々。当初首脳陣は「まだ体が来ていないし、春は無理させない」と話していたが、他の投手が結果を出せずついにはGO指令が出された。

5月23日の最終戦、優勝の可能性がなくなった立大2回戦の先発だった。左腕から140キロ台のストレートにカーブ、スライダー、チェンジアップを

小気味よく投げ込んでいく。リードするのが同じ新人の横山ということもあり、気持ち良さそうに打者を料理した。「初めての登板ということで緊張もありましたが、それより、やってやる」と思っ投げました。やっと出番が来たな」と堂々としたもの。5イニングを3安打1失点。三振も4個奪った。1年春のリーグ戦で初登板が先発で勝利するのは広島で活躍する野村祐輔以来という快挙。その野村は1年秋には防御率0.00を達成したから藤江に

も大きな期待がかかる。起用した田中監督は「藤江は四球でバタバタする投手じゃないから、思い通りの投球をしてくれました。本当は春は投げさせたくなかったが、他の投手がだらしがないんで投げさせました」と試合後の会見でルーキー投手を最高の言葉で褒めた。

この春、投手は9人登板したが、規定投球回に達したのは竹田のみ。2戦目を任せられる投手不在で3位に終わった。藤江が第2の投手に成長すれば秋は投打のバランスが取れる。大阪桐蔭でもまれた左腕が成長の夏を迎える。

## 宗山初安打が本塁打 遊撃レギュラーつかむ

昨秋のベストナイン遊撃手・西山虎太郎（3年II履正社）が肩痛で出遅れたのもあったが、宗山は実力でレギュラーの座をもちとった。5試合目の法大1回戦でドラフト候補の三浦からリリーグ初安打を本塁打で飾ると、2回戦から最終戦までスタメンから外れることとはなかった。

田中監督は広島1年の頃から宗山に注目していたという。「1年秋の神宮大会の春の甲子園も見てきたから」と、その守備力と柔らかい打撃に惚れ込んだ。難しい遊撃の守備を無難にこなし、打率も.240とやや苦しんだ

打席では常に攻撃的雰囲気のある打者というタイプだ。課題は守り。左翼で

## 横山「第二の坂本」 代打デビューで強烈二塁打

○：横山のデビューは代打だった。東大1回戦の7回。植田に代わって登場すると左翼へ強烈な二塁打。打点も

1回戦からベンチ入りし代打で登場。この時は左翼に倒れたが、その後も代

ついで30年ぶりの毎回得点に貢献した打席では常に攻撃的雰囲気のある打者というタイプだ。課題は守り。左翼で

走や守備固めで出場、立大2回戦では7番右翼でスタメン出場。4打数2安打で初打点も記録。8試合に出場し、貴重な経験を積んだ。

3安打、全打点を叩き出した。「変化球をうまく打てました。バッティングには自信があります。打撃のタイトル全部獲るつもりでやりたいです」と夢は大きい。秋デビューへこれから猛練習でベンチ入り、レギュラーを狙う。

## 直井デビュー一番乗り 立大戦で4の2初打点

○：1年生で最も早くリーグ戦デビューしたのが直井外野手。開幕の東大

1回戦からベンチ入りし代打で登場。この時は左翼に倒れたが、その後も代

3試合連続の2ラン。この試合4打数

## 杉崎目標は3冠王 新人戦で衝撃の3戦連発

○：新人戦で存在感を猛アピールしたのが杉崎。リーグ戦で同期の1年生メンバーがデビューするのをスタンドで見ながら、新人戦でその悔しさをバ

ツトに込めた。立大戦で逆転3ランを放つと、法大戦では中堅へ先制ソロ。3位決定戦の早大戦では先制二塁打に3試合連続の2ラン。この試合4打数

打線好調も先発2番手不在響き春3位 「上級生がだらしない」厳しい言葉も

# 田中監督「地獄の夏」で日本一奪回へ

3位に終わった春季リーグ戦。首位打者を2人が獲得するなどチーム打率.328と打線は合格点ながら投手陣が崩れた。春の反省と秋に向けての思いをを田中武宏監督に聞いた。



ベンチで戦況を見守る田中監督(左)

## 竹田3勝も物足りない

一悔しい3位に終わりました。

田中監督 結局、投手の2番手が決まらなかった。東大2回戦で磯村を先発で使ったが、彼はヒジのこともあって球数を考えてあげないといけない。高橋にも期待して上級生で行きたかったがダメでした。

一逆に打線は首位打者が2人出るなど頑張ったと思いますが。

田中監督 野手に関しては、やった分だけ結果が出たということだね。誰もが認めるくらい量と質も含めてやらせた。A班(レギュラー組)は朝からバットを振らせたし、夜も時間を割ってやってあげた。あれだけバットを振ったことはなかったんじゃないかな。

一陶山、山田陸が首位打者に

田中監督 丸山を先頭に陶山、山田も頑張ったし結果につながったから自信になったんじゃないかな。ただ4番の上田だけね。オープン戦で長打も出て調子が良かった。このままリーグ戦に入ってくれたらと思っていたが、逆の結果になってしまった。

一投手陣ですが。竹田は11番を付けて、3勝しました。

田中監督 まだまだ物足りないね。もっと練習しないと。リーグ戦が終わってから彼とは話し、かなり厳しいことも伝えました。

一ただ1年生の藤江が初勝利を挙げました

田中監督 本当は春は使いたくなかった。上級生が「相当な覚悟を持って」だらしがなく、仕方なく起用した。シート打撃で投げさせても打者が打てない制球もしっかりしている。自信になったと思う。

方なく起用した。シート打撃で投げさせても打者が打てない制球もしっかりしている。自信になったと思う。

一藤江も含め宗山、横山ら1年生もスタメン起用した

田中監督 横山は(正捕手の)植田のヒジが悪化したからね。宗山は高校(広陵)のときから見ていて期待通りの活躍だった。

一秋も下級生が出てきそう?

田中監督 夏は相当厳しい練習になる。(首位打者の)山田でもレギュラーが決まっている訳じゃない。上級生は相当頑張らないと置いていかれます。投手も再編成してオープン戦を通して使える使えないを判断していく。相当な覚悟を持って秋に向かって鍛えていきます。

## 「鬼軍曹」福王氏がコーチ就任「楽しみな選手多い」

イノシシ軍団に頼もしい先輩が加わった。明大時代は主将として首位打者に輝き、巨人で実働13年間活躍した福王昭仁氏が2月からコーチとしてグラウンドに立っている。



今季からコーチに就任した福王氏

田中監督は2学年先輩。島岡監督の元、共に戦った仲だから気心も知れている。「どうしても若い子を指導したい」と巨人を退団、学生野球資格回復研修を受け実現した。「プロで活躍してコーチも経験している。指導力はすばらしい」と指揮官も大歓迎で受け入れた。しかも寮に寝泊まりし選手と寝食を共にして日頃の生活まで目を光らせる徹底ぶり。打撃はもちろん、守備も含め1日中グラウン

ドで汗を流している。「楽しみな選手が多いからね。一緒に頑張ろうという感じです」打撃部門を指導する後輩の鈴木文雄コーチと相談しながら、細かくアドバイスを送る。首位打者に輝いた陶山は「福王さんと出会えたのは大きかった」と感謝する。今季、山田陸と2人の首位打者が誕生し打撃5傑に4人が入るほど打撃は向上、驚

異のチーム打率.328を叩き出した。チーム打率が3割を超えたのは2011年秋の.307以来だ。リーグ戦前から「限界突破」のスローガンとともにバットを振らせてきた。振って振って振りまくる。「夏の強化指定選手は決めているからね」と秋に向けて「鬼軍曹」はさらに選手を鍛えていく。

# 東京六大学2021年春季L Play Back

◇22日 神宮第1 立 大100 010 002 4 明 大000 000 030 3 (1回戦 立大1勝) 勝 宮 7 試合 3 勝 1 敗 敗 渡部 翔 6 試合 1 勝 1 敗	◇15日 神宮第1 早 大300 000 002 5 明 大001 213 01X 8 (1回戦 明大1勝) 勝 竹 田 4 試合 3 勝 1 敗 敗 山 田 5 試合 2 勝 2 敗 勝 徳 山 3 試合 3 勝 0 敗 敗 本 1 号 ② (磯村)	◇8日 神宮第1 明 大001 011 000 3 法 大000 010 000 1 (1回戦 明大1勝) 勝 竹 田 3 試合 2 勝 1 敗 敗 清 山 4 試合 1 勝 2 敗 勝 三 浦 1 号 ① (三浦) 敗 三 浦 1 号 ② (竹田)	◇24日 神宮第2 明 大010 110 020 5 慶 大100 014 00X 6 (1回戦 慶大1勝) 勝 渡部 淳 1 試合 1 勝 0 敗 敗 竹 田 2 試合 1 勝 1 敗 勝 植 田 1 号 ① (森田) 敗 渡部 淳 3 号 ② (橋本)	◇17日 神宮第1 明 大031 020 401 11 東 大000 000 000 0 (1回戦 明大1勝) 勝 竹 田 1 試合 1 勝 0 敗 敗 井 原 1 号 ① (井原) 勝 井 原 2 号 ② (大久保)
◇23日 神宮第2 立 大001 030 000 4 大 000 010 000 1 (2回戦 立大1勝) 勝 江 尾 1 試合 1 勝 0 敗 敗 栗 尾 9 試合 1 勝 1 敗	◇16日 神宮第2 明 大001 020 100 4 早 大001 100 001 3 (2回戦 明大2勝) 勝 渡部 翔 5 試合 1 勝 0 敗 敗 山 田 4 試合 0 勝 2 敗 勝 西 山 1 号 ② (西山) 敗 本 2 号 ① (竹田)	◇9日 神宮第2 法 大010 130 010 6 明 大000 020 000 2 (2回戦 1勝1敗) 勝 山下 隼 3 試合 2 勝 2 敗 敗 高 橋 3 試合 0 勝 2 敗 勝 岡 田 悠 1 号 ① (高橋)	◇25日 神宮第1 慶 大200 000 011 4 明 大000 100 000 1 (2回戦 慶大2勝) 勝 居 橋 2 試合 2 勝 0 敗 敗 高 橋 2 試合 0 勝 1 敗	◇18日 神宮第2 東 大000 011 000 2 明 大211 116 32X 17 (2回戦 明大2勝) 勝 村 山 1 試合 1 勝 0 敗 敗 西 山 1 号 ② (井原)

**リーグ3度目の毎回得点**  
△東大戦▽1回戦は篠原の2本塁打5打点の活躍などで11点。投げては竹田が7回裏で快勝した。  
2回戦は山田陸の5打数5安打など19安打17得点。しかもリーグ3度目の毎回得点を記録して連勝した。

**初戦で痛恨の逆転負け**  
△慶大戦▽5回までリードを奪ったが、6回に四球から竹田が崩れ一挙4失点。8回に反撃したが1点差で敗れる。2回戦は7安打1点と打線が適時打を奪えず投手陣も4投手のリレーも実らなかつた。

**竹田リーグ戦初完投勝利**  
△法大戦▽先発の竹田が本塁打による1点だけに抑え、リーグ初完投勝利。途中出場の1年・宗山の本塁打も大きかった。2回戦は先発の高橋が4失点。左腕山下に8安打を放つも2点しか奪えず連勝ならず。

**初戦逆転勝ちで波乗った**  
△早大戦▽1回戦は初回に竹田が3ランを浴び追う展開に。3回から反撃し村松、山田の適時打などで逆転勝ち。2回戦は5回に陶山の2ランなどで逆転。守っては西城から4投手のリレーで逃げ切った。

2回戦は先発藤江ら4人の1年がスタメン。打線も奮起し藤江は初勝利。



◇東京六大学野球春季リーグ戦勝敗◇

順	大学名	試	勝	敗	分	勝点	勝率
1	慶大	10	8	2	0	8.0	.800
2	立大	10	6	3	1	6.5	.667
3	明大	10	6	4	0	6.0	.600
4	法大	10	4	5	1	4.5	.444
5	早大	10	3	6	1	3.5	.333
6	東大	10	1	8	1	1.5	.111

※全日程終了

◇東京六大学野球ベストナインと表彰選手◇

項目	選手名(所属)	票	回
投捕	増尾 聖	10	初
	福井 聖	14	3
	東 藤	9	6
一塁	村山 朝日	6	14
	山田 陸	6	14
	山田 陸	11	11
二塁	山田 陸	12	11
	山田 陸	11	11
	山田 陸	7	7
三塁	山田 陸	6	14
	山田 陸	6	14
	山田 陸	7	7
遊外	山田 陸	10	3
	山田 陸	14	14
	山田 陸	11	11
首位打者	陶山 勇軌(明大)	500	
首位打者	山田 陸(明大)	500	
最優秀防御率	森田 晃介(慶大)	1.57	

※満票は15.回は受賞回数

◇東京六大学野球投手成績10傑◇(全日程終了)

選手名(所属)	勝	回	勝	敗	責
① 森田(慶)	1.57	34 1/3	6	3	0
② 増尾(法)	2.10	30	5	4	1
③ 山下(法)	2.25	32	5	2	3
④ 三浦(法)	2.31	39	5	2	2
⑤ 竹田(明)	2.89	37 1/3	6	3	1
⑥ 西垣(早)	3.41	34 1/3	6	0	3
⑦ 池田(立)	3.51	33 1/3	9	1	1
⑧ 徳山(早)	3.54	28	6	3	2
⑨ 井沢(東)	6.21	29	7	0	4

◇東京六大学野球春季L打者成績10傑◇(全日程終了)

選手名(所属)	打率	打	塁	打	塁	打	塁
① 山田陸(明)	.500	9	26	13	5	0	
② 陶山(明)	.500	10	40	20	8	1	
③ 村松(明)	.366	10	41	15	7	0	
④ 東(立)	.359	10	39	14	12	3	
⑤ 丸山(慶)	.357	10	42	15	5	0	
⑥ 下山(慶)	.350	10	40	14	6	1	
⑦ 斎藤(法)	.342	10	38	13	10	3	
⑧ 中原(立)	.333	10	30	10	1	0	
⑨ 朝日(慶)	.324	10	34	11	3	0	
⑩ 広瀬(慶)	.318	10	44	14	4	1	

## 3位もベストナイン4人

# 「絶対勝たないといけない大会」金メダル誓う

# 森下暢仁五輪代表



東京五輪のメンバーに選ばれた森下

**稲葉監督「先発として」期待**  
**7月23日開幕**  
 7月23日に開幕を迎える東京五輪。野球競技の日本代表にOBの森下暢仁投手（広島）が選出された。6月16日に代表24人が発表され先発候補としてプロ2年目の森下が待JAPANのユニホームを着るようになった。

代表選出の知らせに「絶対勝たないといけない大会、任されたところで自分の投げができるよう、しっかりチームの一員として力

でもU18日本代表、大学では2年から3年連続で大学日本代表に選ばれ、4年では日米大学野球ではMVPを獲得。そして今、すべて「JAPAN」のユニホームに袖を通したことになる。地元開催のオリンピック。金メダル獲得が至上命令だけに、森下にかかる期待は大きい。7月28日から始まる予選ラウンドから全力で勝ちに行く。

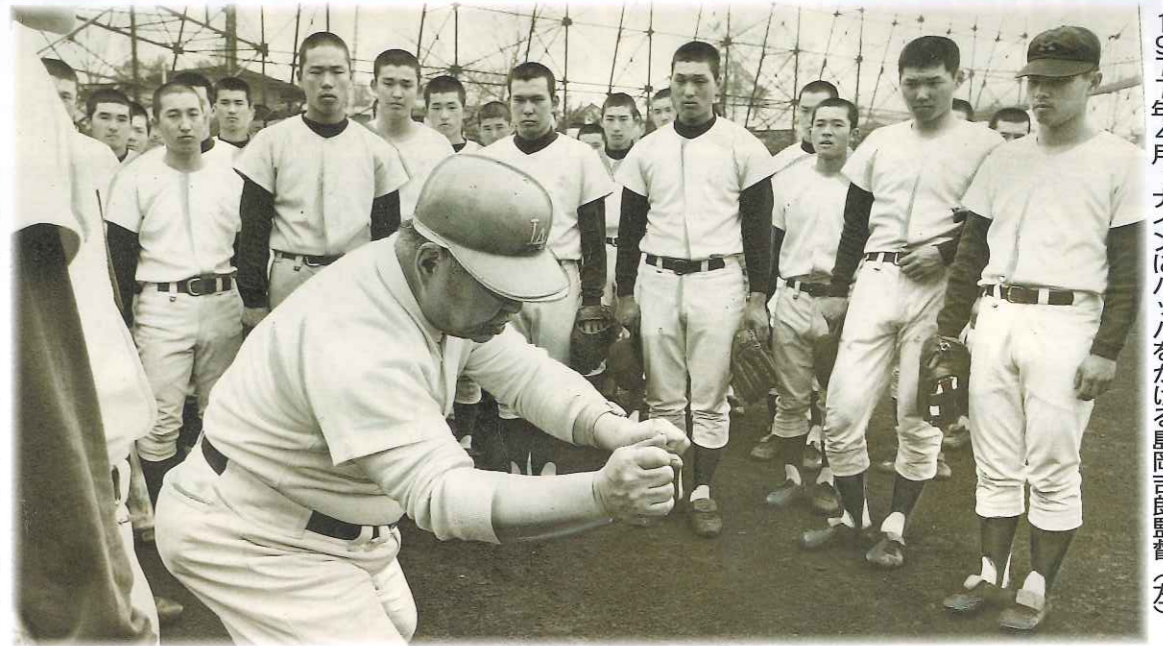
**五輪出場OB 広沢氏ら7人**  
 過去の五輪・野球競技に出場したOBは7人。84年のロス五輪は公開競技だったが、広沢克美氏（明大4年）が主軸を打ち金メダルを獲得。88年ソウル五輪では菊池隆投手（東芝）が出場。92年バルセロナ五輪は荒井信久投手（神戸製鋼）、三輪隆捕手（神戸製鋼）、坂口裕之外野手（日本石油）の3人が出場。08年の北京五輪では星野仙一氏が監督として指揮を執り、川上憲伸投手（中日）が参戦した。



パーティションで区切り「私語禁止」の中で食事する選手たち

**寮でコロナ対策…食堂は「私語禁止」**  
 寮でコロナ対策…食堂は「私語禁止」  
 寮でコロナ対策…食堂は「私語禁止」  
 寮でコロナ対策…食堂は「私語禁止」

# 島岡吉郎物語 ~明治中監督編~



1977年4月、ナインにハッパをかける島岡吉郎監督（左）

**チーム強化へ自ら物資調達に奔走**  
 前回は、応援団長だった島岡吉郎が明大野球部監督になるまでの連載。戦後すぐ、明大理事長、総長に掛け合せて明治中の野球部監督就任の許可を得た島岡。チーム強化のため動き始めた。

**モノと心で**  
 明治中の監督に就任した島岡は、高田馬場に住む岡田源三郎にコーチ依頼に出向いた。島岡は岡田に向かって頭を下げて「明中のコーチを引き受けてもらえませんか？野球のことはすべてお任せします」と話し、続けて「私はモノと心で選手の面倒をみます」と全身で訴えた。

**最先端戦術**  
 こうして島岡一岡田ラインで明治中野球部はスタートを切った。昭和22年には夏の大会に続いて春の選抜大会まで復活することになった。まだチームは弱かったが岡田の指導の元、当時は誰も知らなかった2ラン・スクイズなど先端の技術を学んでいた。2年間、岡田に指導を受け岡田辞任のあとでも有力OBが島岡とともに選手の指導にあたり、明治中は洗練されたチームにな

っていった。ところで明大監督時代、神宮球場でのノックは名物だった。体全体を揺すってノックバットを振る。打つたびに野手に近づいていくから観客からその姿に笑いも起こった。明治中監督に就任してノックはどうしたのか？名マネジャーと言われた杉本正太郎は「ネットに向かって一生懸命打っていましたね」と当時を振り返る。チーム強化のためたら他大学の先輩にも頭を下げて指導を仰いだ。そんな指導が実を結び、昭和25年、ついに春のセンバツ大会に初出場を決めたのだ。=敬称略=

2021年度入部者

位置	名前	身長	体重	投打	出身校
投手(9人)	1 門太雅也	86	80	右	興中
	2 太陽竜	81	79	右	明大
	3 江口地	82	92	右	明大
	4 藤松	77	81	左	明大
	5 千原	78	79	左	明大
	6 島田	64	72	左	明大
	7 森下	70	73	左	明大
	8 山下	86	78	左	明大
	9 山田	78	85	右	明大
捕手(4人)	1 中山	76	80	右	明大
	2 花原	75	75	右	明大
	3 原山	65	71	右	明大
	4 山田	75	75	右	明大
一塁手(3人)	1 杉本	75	80	右	明大
	2 西田	83	86	右	明大
	3 池田	80	78	右	明大
二塁手(5人)	1 池田	75	78	右	明大
	2 佐藤	67	61	右	明大
	3 佐藤	69	61	右	明大
	4 秋元	64	62	右	明大
	5 秋元	72	70	右	明大
三塁手(6人)	1 加藤	80	76	右	明大
	2 藤本	79	80	右	明大
	3 高橋	79	85	右	明大
	4 高橋	80	80	右	明大
	5 高橋	85	85	右	明大
	6 高橋	78	80	右	明大
遊撃手(4人)	1 甲斐	79	77	右	明大
	2 山岡	65	66	右	明大
	3 山岡	76	75	右	明大
	4 山岡	69	75	右	明大
外野手(7人)	1 飯島	62	59	左	明大
	2 森田	80	82	左	明大
	3 神田	67	65	左	明大
	4 丸山	73	76	左	明大
	5 丸山	70	75	左	明大
	6 丸山	80	79	左	明大
	7 丸山	78	70	左	明大
マニピュレーター(4人)	1 岩大	68	65	右	明大
	2 岩大	68	65	右	明大
	3 岩大	68	65	右	明大
	4 岩大	68	65	右	明大

## 新人戦3位も杉崎の独壇場 弾！弾！！弾！！

**法大戦で投壊11失点 下級生も課題は投手**  
 早慶戦終了翌日の5月31日からフレッシュマン戦(新人戦)が開幕。A組の明大は初戦で立大と対戦。投手陣が10四死球を与える中、4番に起用された杉崎成一塁手(1年)が東海大菅生)が8回に逆転3ランを放って初戦を白星で飾った。2戦目は法大と対戦。この試合でも杉崎が2試合連続で打席連続の先制本塁打を放つも、投手陣が崩れコールド負け。B組2位の早大と3、4位決定戦に回った。

この試合は杉崎の独壇場。初回に先制本塁打を放つと、3回には左翼席へ3試合連続となる3ラン。全打点を叩き出し、3-1で早大を下し3位で終了した。新人戦とはいえ杉崎の3試合連続は快挙。秋に向けて右の大砲として期待が膨らむ。あとは課題の守備。春季リーグ戦で1年生数人がデビューしたが、また1人入場しみな打者が誕生した。ただ投手陣は制球難を露呈。夏の練習で成長し、秋のベンチ入りを目指す。

令和3年度は42人の新入生が入部した。マネジャーは4人。今後OBの連絡役も含めお世話になります。

▽岩崎 陽(日大鶴ヶ丘)チームのために精いっぱい頑張ります。

▽大崎 未希(愛知・滝子)チームのために精いっぱい頑張ります。

▽岸上 さくら(立命館慶祥)感謝の気持ちを忘れず、何事にも精いっぱい努めます。

▽小池 璃子(桐生)明大野球部の一員としての自覚を持ち、全力で頑張ります。

合連続となる3ラン。全打点を叩き出し、3-1で早大を下し3位で終了した。新人戦とはいえ杉崎の3試合連続は快挙。秋に向けて右の大砲として期待が膨らむ。あとは課題の守備。春季リーグ戦で1年生数人がデビューしたが、また1人入場しみな打者が誕生した。ただ投手陣は制球難を露呈。夏の練習で成長し、秋のベンチ入りを目指す。

最終打席で首位打者を決めた山田陸

5盗塁と足でも魅せた陶山



69年ぶりにチームから2人の首位打者が誕生した。陶山勇軌外野手と山田陸人内野手が打率.500の高打率で初のタイトルを獲得。明大では1952年(昭27)以来の快拳となった。

# 陶山 & 山田陸 打率.500 69年ぶりの快拳 同時首位打者

福王コーチのひとことで「目標が明確に」  
9試合でダントツの20安打

リードオフマンとして文句のつけようのない活躍。陶山はリーグ戦を振り返って納得の表情を作った。開幕の東大1回戦で4安打をマーク。2回戦も3安打し2試合で11打数7安打の固め打ち。無安打は法大1回戦の1試合のみ。マルチ(複数)安打は7試合を数えた。最終の立大戦は守備のみでの出場だから9試合で

20安打はダントツの数字だった。  
今季から巨人で活躍した福王昭仁氏がフルタイムコーチに就任。同じ左打者、明大時代に首位打者を獲得した先輩。2月、最初に挨拶に行く福王コーチから「俺がお前を首位打者にしてやるから」と声をかけられた。陶山は「あのひとことで目標が明確になりました」

と言う。全体練習後もティー打撃などに付き合ってもらい「自信を持ってリーグ戦に臨みました」と準備は万全だった。  
2年生だった19年の全日本大学野球選手権で日本一に貢献。その後の活躍に期待されたが伸び悩んだ。善波達也前監督が「般が破れないなあ」と歯がゆさを口にしていた。そんな男が最終学年で覚醒。リーグ戦前の猛練習で「余裕を持って打席に入れたのが一番で

す」と言うまでに成長した。  
50分5秒台の足で5盗塁。早大戦ではリーグ初本塁打もマークした。チームメートの山田陸との同時首位打者も「一緒に獲れたらと思っていた。最高です」と後輩の頑張りも称えた。しばらくはタイトルホルダーとして余韻に浸りたいところだが「首位打者は終わったこと。秋に向けてやり直します」と慢心はない。秋も頼りになるトップバッターとして試合に臨む。

●陶山 勇軌(すやま ゆうき) 1999年4月14日、神奈川県川崎市宮前区出身。元宮前ファイターズ(横浜市内)で野球を始め、東京城南ボーイズから常総学院へ。2年生の時、春夏の甲子園に出場。明大では1年秋にリーグ戦デビュー。通算は177打数39安打の.333。1塁80、78キ、右投げ左打ち。日高屋のチゲ味噌ラーメンをこよなく愛す。

最終戦で決めた!!打順7番から2番で3の2以上の条件クリア!!

ベンチはもちろん、関係者が一人の右打者に注目していた。最終戦となった立大2回戦。陶山と並ぶ打率.500で出場した山田陸だ。この試合前まで規定打席に「4」不足していた。田中監督は前日の練習で「お前には前日の練習で、お前に4打席やるから結果を出振。規定打席に達し3打

数1安打1四球。巡ってきた8回の最終打席にすべてを賭けた。  
「甘いボールが来たら初球から振っていいことと思ってました」左腕・宮の初球を狙ったように左前に運びガッツポーズを作って一塁に走った。計算通りの4の2。同時首位打者誕生の瞬間だった。この結果に指揮官は「練習してきた選手が結

果を出した。そういうことで」と山田の努力を認めた。今季から初のレギュラーを奪ったが、試合中に足を痛め欠場もあった。1年生の台頭もある。「まだまだ練習しないと。安心なんかしていません」とさらなるレベルアップを目指して秋を見据えた。

●山田 陸人(やまだ りくと) 2000年6

### ＜首位打者記録メモ＞

リーグ戦で2人が首位打者になるのは今回で6度目となるが1952(昭27)春の慶大が初めて。明大では同年秋に渡辺礼次郎、岩崎巨利が打率.333で獲得している。

10試合で20安打以上を記録した首位打者は陶山で4人目。10試合制の1942年(昭17)の別当薫(慶)が初めて。陶山の場合、10試合目(立大戦)は守備のみ出場だから実質9試合で達成したことになる。

月18日、横浜市生まれ。横浜泉シニアから桐光学園。甲子園出場はなし。明大では1年秋、立大1回戦で代打デビュー。今季初安打を放つと首位打者まで駆け上がった。広島・鈴木誠也にあこがれる右打者。三塁手のベストナインは初受賞。1塁78、86キ、右投げ右打ち。

☆紙面編集 齋木 駿